

かわさきTMO通信

＜毎度おじゃまします・かわさきTMOタウンマネージャーです＞

2015年7月号 No.59

- 27年度TMO活動計画
- かわさきTMOの自立化
- 事務局便り

発行元：川崎商工会議所
 発行責任者：会長 猪熊俊夫
 編集責任者：タウンマネージャー 笹原克
 発行日：2015年7月25日
 発行部数：1,000部
 ◆連絡先
 TEL：044-211-4114
 FAX：044-211-4118
 Email：
 sasahara@kawasaki-cci.or.jp
 「まちづくり情報交換誌」を目指しています。タウンマネージャーにお気軽に情報をお寄せください。
 ご意見・ご感想・ご要望大歓迎です！

◇27年度TMO活動計画

27年度は、ある意味TMO活動にとつて区切りの年となります。平成18年に新体制のかわさきTMOとして活動を始め、10年目となるからです。1998年（平成10年）に中心市街地活性化法が施行され、商業振興の実施主体としてTMOが推進されました。しかし、2006年に同法が大きく改正されたことにより、全国的に広がっていたTMO活動は、急速に衰退の一途を辿りました。しかし、川崎市は、国の政策が転換されても、TMO活動の必要性を認識し、体制を大きく変え、再出発を図ることとしました。それが、現在のTMOの原型です。この9年間、会長の猪熊俊夫、副会長の馬場義弘が、活動を推進してきました。両者が会長を務める川崎中央商店街連合会と川崎駅前商店街連合会の合併はその区切りの象徴といえます。その意味で、27年度は10年の集大成の年であり、次の10年間への準備を図る年といえます。本年度の活動も5つの部会を中心に、基本的にこれまでの活動を継続する方針です。各部会活動に沿って、本年度活動を見ることとします。

商店街協定部会（武藤部会長）では、昨年度はその活動において、大きな成果を生みました。「川崎駅東口周辺道路適正利用推進協議会」の活動を通じ、川崎市、川崎区、川崎警察署、町内会とともに、はみ出し看板および商品の排除を押し進めた結果、本年度は、これら違法な屋外広告物撤去の徹底化の推進と同時に、「客引き行為等防止条例（仮）」の成立に向け、幅広く活動を展開していきます。

回遊性部会（小林部会長）では、「バスカー事業」「オープンカフェ事業」「タッチラリー事業」「通行量調査事業」を継続します。専門アドバイザーの退任の影響により、活動規模は若干縮小しましたが、川崎駅周辺の回遊性を創造するための諸施策を検討していきます。これまでに検討してきた小型電気自動車、ワンコインバス、LR Tなどの新交通体系を検証することとします。

イベント連携部会（大西部会長）では、秋のイベントを中心に個々のイベントが連携することで大きな相乗効果を生んでおります。本年度も「フェスティバルなかわさきの共同PR事業」「連連連・つながりかわさき事業」

「イベントサミット事業」を行い、イベントを盛り上げます。

提言部会（戸村部会長）では、TMOのこれまでの活動を踏まえて、将来への提言を行っており、商業者の間では高い評価を得ています。今年度は、これまでの提言から、着手可能な事業から始め、着実な実現に向け、活動を進めてまいります。

最後に、地域共同販促部会（笹原部会長）では、川崎駅周辺地区の国際化に向けての活動を進めます。これまでの国際化パンフレット、老舗マップなどの当該地域の付加価値を高める活動を行ってきましたが、さらにこれらの活動を推進します。



▲初めて、商店街（平和通り商店街）で実施したオープンカフェ（平成27年3月）

（タウンマネージャー 笹原克）

◇かわさきTMOの自立化

かわさきTMOの、この10年間の活動の財政的基盤は国の都市再生整備計画（特別措置法）における委託費と市の予算によって構成されています。本計画は、5年ごとに実施されてきましたが、平成27年度を最後に国の財源手当がなくなります。よって、来年度からはTMOの財政的基盤を新たに作っていくことが求められています。これまでも、TMO独自の自主財源の確保についてさまざまな検討を行ってきました。そのひとつとしてタッチラリー端末の貸出収入があげられています。しかしその他には、ワンコインバスの自主運営、駅周辺の広告施設の運営・管理などによる自主財源確保の検討を行いました。また実現できていないのが実情です。

来年度の財源に関しては、現時点では、不透明な点が多いのが現状です。

先の総会では、会員から「TMOの事業を選択・集中した方がいい」と指摘され、予算縮小が予想され、限られた財源での、組織運営の在り方を暗示するものでした。ここで、改めて「TMOのミッション」とは何かを明らかにすることは、今後のTMOの在り方を

考える上で、非常に重要なことといえます。その点を踏まえ、「TMOのミッション」を整理することとします。

●川崎駅の東西地域（行政区を挟んで）のステークホルダー（事業者・金融機関・地権者・行政など）が集まる場

●川崎市の核となる地域の現状を分析し、将来の在り方を「提言」する機関（これまでも数多くの提言を行い、それらを実行している実績がある）

●「まちづくり」の実践組織として、諸機関（市役所の各部署、区、川崎警察、観光協会、まちづくり団体等）との連携を構築し、実践する機関

この三つのミッションがTMOの存在意義であり、社会的に求められている役割であるといえます。今後のTMOの体制は、これらを基盤として、活動を継続していくことが求められています。

（タウンマネージャー 笹原克）

◇平成27年度第1回総会

6月22日、川崎商工会議所会議室において、平成27年度第1回かわさきTMO総会が28会員中19名の参加を得て開催され、平成26年度事業報告・収支予算、平成27年度事業計画・収支予算案すべてが承認されました。

た。今年度は、川崎市からの補助金全廃ならびに委託金の国費対象分が大幅に削減されることが決まったことから、非常に厳しい予算でのスタートとなります。これまでの事業を、いかに支出を抑えながら有効に継続していくかという大きな課題に、TMO自立化とともに前向きに取り組んでいくことを一同確認しました。

笹原マネージャーから部会事業についての説明が行われたのち、質疑応答では、出席会員の皆様から「観光都市としても飛躍するために大型観光バス駐車場の実現を」「東京五輪も見ていてインバウンドへの対応が必要ではないか」「川崎市の地域資源の発掘・PRをTMOとともに検討していきたい」等々、様々なご提案・ご意見をいただきました。今年度もかわさきTMOをよろしくお願



（事務局 六反 友佳里）

◇事務局便り

本年4月より、新たにかわさきTMO事務局となりました田尻 宇玖（たじり たかひさ）と申します。この4月に商工会議所に入職し、大学時代より念願だった「まちづくり」の一端に携わらせていただき、幸甚に存じます。現在、川崎市では、殿町キングスカイフロント地区の開発を始め、先進的な施策を進めています。2020年の東京五輪の開催を控え、今、持続可能な都市、かわさきへと大きく変わる瞬間に立ち会えることは感慨深いものです。一方、川崎駅周辺では、川崎駅西口の適正な再開発やさいか屋跡地利用の検討など依然として、課題は山積しており、これらについて討議する場が必要です。今年度のTMOは、財源確保を含め、時代とともに変化する地域経済の課題を捉え、市民や業者に必要とされるまちづくり機関としてTMOが生き残る瀬戸際に立たされていると認識しています。最後となりましたが、TMO会員の皆様には、本年も引き続き、かわさきTMOの活動に際し、ご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

（事務局 田尻 宇玖）